

大分県立高等学校第三者評価【評価書B】

大分県教育委員会

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 海洋科学 高等学校	
学校教育目標	実践的、体験的な学習活動や創意工夫を生かした特色ある教育活動を通して、水産や海洋教育の充実を図り、水産・海洋関連を中心とした産業社会を担う職業人を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・目指す姿(目標)からバックキャストして、中期・短期目標から取組の方向性、そして重点的に育成したい 資質・能力が具体的に明示され、校長のリーダーシップの下、分掌主任を中心とした組織的な教育活動 が展開されている。 ・学校の特色を踏まえた明確な「学校運営ブランドデザイン」が策定されている上、先進的な取組として「スクールミッション・スクールポリシー(案)」を策定し、全教員とともに共有しようとしていることは高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、運営委員連絡会、定期的な学年会議や分掌会議で課題を共有、分析し、課題解決に向けた取り組みができるように職員間の連携を図る。
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・特に専門教員の人事異動の規模が非常に小さな本校において、校長のリーダーシップの下、他校の勤務経験のある教員や若手教員を含む「学校改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、率直な意見交換を通じた改革・改善意識の向上を図ろうとする取組は高く評価できる。 ・これにより教員同士の課題や改革改善の共有が進み、ひいてはこの取組が生徒会活動の活性化につながることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革プロジェクト会議における積極的な意見交換、運営委員連絡会における各分掌間の連携などを積極的にを行い、学校教育目標の達成に努めていく。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・学校HPやInstagram、臼杵市市報、中学生向けの説明会、体験入学など、情報の伝達・公開を積極的に行っている。学校HPでの進路情報の提供においても、年度ごとの就職状況等のデータが具体的にわかりやすく示され、就職先の企業名をクリックすると、その企業のHPにジャンプするなどの工夫もあり、とても充実している。 ・O-Laboや臼杵市、企業などと連携した授業を拡大しており、生徒の学ぶ意欲の向上にもつながっている。 ・このような取組は、学校のPR(生徒募集など)や就職にもつながっていくと思われるので、今後も地域社会との連携強化を図っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPやInstagram、FacebookなどのSNSの活用にあたっては、地域や県内の小中学生に興味関心を持ってもらうとともに、本校の取組を知ってもらうための動画の活用など、内容の充実を図っていく。 ・引き続き臼杵市、O-Labo、中部振興局などの関係官庁と連携するとともに、地域の小中学校との交流も活性化し、生徒の学ぶ意欲の向上、学校のPRにつながる取り組みを行っている。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体として P D C A サイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・生徒のヒアリングやアンケートから、生徒の学ぶ意欲が高く、さらに授業がわかりやすく、主体的に学べる環境にあることが伺えた。特に専門科目や実習の授業の評価が高く、1日の授業全体の中でメリハリがあるなど、充実した学びに取り組めている様子が伺え、水産学部等のある4年制大学への進学者を出している点は、本校の学習指導の成果として評価できる。 ・ただし、生徒の満足度が高い一方で、学校の授業以外の学習時間の少ない生徒が多いなど、日常の学習習慣や学力レベルには課題が見られるので、確かな学力の育成に向けた一層の取組が期待される。 ・小規模の学校という難しさもありながら、生徒会活動の活性化に向けて、委員会活動やホームルーム活動の充実にも努めている点は評価できる。今後、主催者教育の観点からも、教員の意識改革を含めた一層の取組が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には基本的なルールの徹底を図り授業に臨む意識の高揚を促すとともに、各教員が毎学期の授業アンケートを基に、授業改善に取り組んでいく。 ・学習習慣の確立に関しては、特に1年生の指導を強化し、定期的な課題配布や学習のサポート等により、早期の学習習慣の定着を目指す。また、2、3年生については、資格取得を絡めた指導を効果的にを行い、学習習慣の確立を目指す。 ・生徒の主体的、対話的活動の充実につなげるために、生徒会活動や各種委員会活動の活性化を促す。 ・学ぶことへの興味関心を高め、授業の活性化等につなげるため、一人一台タブレット端末等のICT機器を積極的に活用していく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・いじめ、不登校事案が前年度より増加しているが、学校としていじめを把握し、解決に向かって取り組んでいる証拠であると読み取れる。 ・相談対応や面談はしっかり行われているようだが、予防の取組を充実させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生徒面談、アンケート等を活用して生徒の状況把握に努めるとともに、毎朝の学年会議、生徒情報連絡会等を活用し生徒一人一人の情報を全職員で共有し共通理解を図ることで、きめ細やかな生徒指導に努める。 ・いじめの問題を自分たちの問題としてとらえられる自己指導能力を育成するため、道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの充実、推進を図る。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・伊方原発に近いという立地から、原子力災害発生時の対応を含めて、様々な事象を想定した危機管理マニュアルが整備されている。 ・自転車用ヘルメットの着用指導等は適切に行われている。 ・第1回目で指摘した外壁劣化についても、適切に予算要求されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、防災避難訓練、39メールを活用した学校独自の安否確認訓練などを行い、生徒や職員の危機管理意識の高揚に努める。 ・指導や講話だけでなくとまらず、HRAを活用し生徒自らが安全意識を高められるように指導する。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年休取得の促進や超勤縮減が適切に図られており、働き方改革がしっかりと取り組まれていると思われる。 ・特に、外部機関(O-Labo)やiPadの活用などにより、授業準備等の効率化と授業の効果の両立が図られていることは高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務実態の把握、勤務データの提示による声掛けを行いながら、全職員で超過勤務の縮減に努めるとともに、働き方改革に取り組む。 ・外部機関の活用などにより、効果的な業務の改善に努め、授業準備等の効率化を図る。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○定員確保に向け、具体的・組織的に取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からのヒアリングでも、体験を通じて本校を志望したとの声を多く聞いた。他校には真似できない唯一の魅力があることは間違いない。 ・学校課題の明確化と共有・改善方策を検討する「学校改善プロジェクトチーム」が立ち上がっており、このチームを中心に学校改善が進んでいくことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の活用等により学校ホームページの内容充実を図るとともに、コンテンツ作成に関わる職員を増やし更新頻度を上げる。 ・進路ガイドブックの改訂、高校説明会等の工夫改善等を行い、体験入学参加者の増加や本校関係行事への参加者増加を目指す。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全国でも珍しく、県内唯一の海洋高校として、海洋国家である日本の将来を担う若者たちを育成するという気概をもって生徒の教育に当たることを期待する。それが県立高校としての県民の負託に応えることにつながると考えられる。 ・教育機関として全国で初めて「マリンアクティビティ安全推進団体」に認定されたり、ローカルフィッシュ缶グランプリ2021で優秀賞(全国2位)を受賞するなど、学校の特色にふさわしい顕著な実績と成果を積み重ねている点は高く評価できる。 ・「楽しい、フレンドリー」「誰でも輝ける」といった生徒の発言がとても印象深く、生徒と教員の距離が近い「良い学校」だと感じた。 ・「スクールミッション・スクールポリシー(案)」が認められ、公になることを期待する。そしてそれが学校のPRになると考える。 ・「学校改善プロジェクトチーム」のあり方が生徒会活動の手本になると思われるので、教員の取組を生徒にも伝え、学校全体でPDCAを回してよりよい学校をつくっていただきたい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌主任等で構成する運営委員会や運営委員連絡会に加えて、若手職員や普通科職員など多様な教員で構成される学校改革プロジェクトチームが、学校課題の焦点化や改善に向けて有効に機能しており、次年度も継続していく。 ・HPやInstagram等の内容充実を図るとともに、市報や新聞等のメディア、チラシやパンフレットの配布等、様々な手段を用いて、本校の魅力を地域や小中学生にアピールし、定員確保につなげていく。 ・研究授業の実施等、授業改善の取り組みを行いながら、生徒の学習意欲の向上を図るとともに、資格取得の取り組みを活用し、基礎学力の定着や学習習慣の確立を目指す。 ・本校で学ぶ生徒が安心して教育活動に取り組むことができるように、安全管理体制の定期的な見直しを行うとともに、生徒や職員が様々な危機に対応できるように、訓練や研修会等の充実を図る。 ・地域と連携した取組に積極的に取り組み、地域や産業界に必要とされる学校を目指す。 			